学校だより　令和６年２月２９日

3月 かわい

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/（HP 随時更新中！）

地球規模の課題と向き合う

校長　窪田　剛久

暖かさ、寒さを繰り返して、着実に季節は春へと向かっています。ただ今年はその寒暖差が非常に大きく、体調を崩す方もたくさんいらしたのではないでしょうか。川井小学校でも、この冬インフルエンザによる学級閉鎖を３度実施しました。その後ピークは去り、欠席児童も随分と減ってきています。このまま暖かい春を迎え、子どもたちが新学年、あるいは中学校という新しいステージに安心して立てることを、心から願っています。

さて、先日東京大学が 2027 年秋に新学部に相当する５年間一貫の教育課程を創設する方針を固めたとのニュースを耳にしました。医学から文学まで、東大が持つ教育・研究資源を最大限に活用した文理融合型の課程で、気候変動や生物多様性など、従来の縦割りの学問領域では解決が難しい地球規模の課題に対し、解決策を導くことができる人材を育てるのが目的だそうです。現在の状況を地球規模で眺めると、確かにこういった新課程の教育は必要なのかもしれません。毎年のように話題になる異常気象の課題については、取り組んではいるものの未だ解決の糸口が掴めていない印象です。また海外で継続して続いている紛争問題、地震や津波、山火事など地球規模で発生する災害からも目が離せない状況です。今はほとんど話題にされることのなくなってしまった、皮膚がんや白内障を引き起こす危険性のあるオゾンホールも、現在も南極圏で不気味な口を開けているのです。東大の新課程ではこうした課題に対し、自然科学の知見だけでなく、法律やビジネスなども横断的、体系的に学び、解決に向けた戦略や新たな価値の創造を目指しています。大変興味深い取組として注目していきたいと思いました。

本校では先日４年生が資源循環局と連携し「フードドライブ」の活動に取り組みました。もちろんいきなり「フードドライブ」に取り組んだわけではありません。社会科「ごみはどこへ」の学習でごみの分別の仕組みや大切さを学びました。その後、焼却工場を見学し収集車に学校に来てもらうことで体験的な学びを重ね、資源循環局の方からのお話やいただいた資料から、ごみにまつわる問題が深刻であることを実感しました。そうした積み重ねを下地として、総合的な学習で自分たちに取り組める活動を調べ計画していきました。そして実現したのが本町公園、川井宿公園のごみ拾いと今回の「フードドライブ」です。お手伝いいただいた保護者の方々、子どもたちに寄付する食べ物を持たせてくださった皆様、本当にありがとうございます。おかげで大変実りの多い活動となりました。こうした具体的な行動に繋がる取組は、東大での横断的、体系的に学び解決力を身に付ける新課程の取組と、どこか通じるものがあるように思います。

３月の学習予定を見ると６年生の社会科では「地球規模の課題の解決と国際協力」、理科では「自然とともに生きる」、家庭科では「持続可能な社会を生きる」といった、今私たちが直面している地球規模の課題に通じる大切な学習が扱われています。すでに小学校の段階から、子どもたちは広い視野で人間社会が抱える大きな課題と向き合う準備をしています。こうした準備が将来、自然科学だけでなく、その他の知識等も横断的、体系的に活用しながら、地球規模の課題の解決に向けた戦略や新たな価値を生み出す力となっていくことを願っています。

2015 年９月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）では、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指すことを国際目標として掲げています。2030 年まではあと６年です。川井で学んだ子どもたちが、少しでもこの目標実現に向けて力が発揮できるよう、私たちはこれからも日々学習を工夫し改善していきます。今年度の都岡中学校区地区懇談会のテーマは「SDG s　～環境問題、私達に出来ること～」でした。少しでも SDGs のゴールに近づけるように、川井小学校は地域とともに歩んでいきたいと思います。１年間、本校の教育活動をご理解いただきありがとうございました。これからもご協力のほど、よろしくお願いいたします。